



2025年10月14日

各 位

会 社 名 オンコリスバイオファーマ株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 浦田 泰生
(コード番号：4588)
問 合 せ 先 執 行 役 員 秦 耕 平
(TEL.03-5472-1578)

欧州臨床腫瘍学会における 腫瘍溶解ウイルス OBP-301 の学会発表のお知らせ

2025年10月17日～21日にドイツのベルリンで開催される「ESMO Congress 2025（欧州臨床腫瘍学会 2025 年次総会）」において、国立がん研究センター中央病院頭頸部・食道内科科長/消化管内科科長 加藤健 医師により、当社が実施しました食道がんを対象とする腫瘍溶解ウイルス OBP-301 の放射線療法併用による Phase 2 試験（以下、「OBP101JP 試験」）の最終成績が発表されますので、お知らせいたします。

1. 演題：Oncolytic virotherapy with surtatadenoturev (OBP-301) injection with radiotherapy alone for esophageal cancer patients: Final results of OBP101JP study
2. 発表の概要：
 - ① OBP101JP 試験に登録された 37 名が安全性の評価対象であり、36 名が有効性の評価対象でした。
 - ② 局所完全奏効（L-CR）率は、18 ヶ月間の全試験期間を通じて 36 名中 18 名（50.0%）であり、事前に設定された閾値 30.2%を上回りました。
 - ③ 18 ヶ月時点の全生存率は 56.6%であり、がん特異的生存率は 70.1%でした。
 - ④ これらの有効性成績は、いずれも放射線単独療法よりも良好であることが示唆されました。
 - ⑤ 最も多く認められた有害事象は、リンパ球の減少（37 例中 26 例、70.3%）及び発熱（37 例中 23 例、62.2%）であり、いずれも一過性で管理可能でした。
 - ⑥ OBP-301 による食道がん治療は、臨床上有用であると考えられます。

今回の欧州臨床腫瘍学会 2025 年次総会では、OBP101JP 試験の最終成績として 18 か月までの結果が発表されます。

本件による 2025 年 12 月期の当社業績への影響はありません。なお、当社は、食道がんを最初の適応とする再生医療等製品としての承認申請を 2025 年 12 月期に行う計画です。

以上